

## < 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

# ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

## 第21回

## セイヨウカノコソウ



オミナエシ科 に属するセイヨウカノコソウです。

小さな淡い赤紫色をした花が初夏に開花し、あまり良いとは言えない臭いを放ちます。



草丈は1~2mに達するものも見られます。ドイツやスイスの1000~2000m位の山地に多く自生しています。筆者もスイスのリギ山やドイツのバーバラ地方で多くの群落を観察したことがあります。

根はバレリアナと呼び抗うつ薬としてヨーロッパではOTC薬となっています。同属の植物でセイヨウカノコソウに比べ若干小柄なカノコソウが日本各地の半日陰で湿気の多い地に自生しています。

根は吉草根と呼ばれます。吉草根は鎮静剤、睡眠剤、ヒステリーの治療薬として有名です。

第一次世界大戦時、ロンドンが激しい爆撃に遭い、ロンドン市民は不眠に悩まされたと言われています。このため当時は日本から吉草根を大量に輸出していた経緯があります。しかし、現在では日本における生産はわずかで、北海道で栽培が続けられているのみです。

複雑な社会情勢となっている現在、マイルドな鎮静薬・睡眠薬として見直される可能性を秘めた薬草の一つと考えます。

Turpinの手彩色による18世紀末の作品です。